



豊田市議会議員

# おかだ耕一

Okada Koichi

http://www.ko1.org/ E-mail:okada@ko1.org

発行/おかだ耕一後援会事務局 〒471-0809 豊田市宝来町4-758-141 TEL/090-1752-7529(番号通知のみ受信)

後援会会報

No.87  
2020.7.10  
(令和2年)



全国的に新型コロナウイルス感染症の収束の気配が見えません。首都圏等では、感染者数が増えています。皆さま今後とも、ともに新型コロナウイルスへの備えを怠らないようにしていきましょう

豊田市議会議員 岡田 耕一

新型コロナウイルス感染症対応のため豊田市議会6月定例会は一般質問を取りやめ、6月29日までの予定を19日まで日程を短縮し、開催しました。

意見等



議案質疑



各会派賛否



おかだ耕一 令和2年度 議会役職

- ・企画総務委員会 委員
- ・定住土地利用対策特別委員会 委員
- ・予算決算委員会 委員

5月臨時会にて下記の委員に選任されました。  
今年1年も頑張ります。

## コロナ禍での市議会に対する要望書の提出

4月24日、会派に属さない岡田耕一、根本美春、中島竜二の3名の議員連名で市議会議長に対して新型コロナウイルス禍での議会対応に関する要望書を提出した。その要旨は以下のとおり。

- ①議員報酬を当面の間、2割程度削減
  - ②活動自粛期間中の政務活動費を返上
  - ③2班10名で計画されている海外視察の中止
  - ④全額国庫補助の給付金は受領し、地元経済に還元
- 【結果】各会派の代表者会議等で協議。  
②は、一人当たり30万円の返上を決定。  
③は、今年度の海外視察の中止を決定。

これにより2,790万円の議会費が削減でき、一般会計でコロナ関連対策等に活用されることになる。

## 一般質問中止に関する申し入れ

5月14日、岡田耕一、根本美春、中島竜二の3名の議員連名で市議会議長に対して中止の方針が出されていた6月定例会での一般質問の実施を求め、申し入れを行った。

19日、各派代表者会議で協議の結果、中止を決定。

3議員の主張の要旨は以下のとおり。

自治体議会の主たる機能である一般質問を中止することは、憲法が定めた地方自治を損なうものとなる。

新型コロナウイルス対策が一層求められている時であり、住民の声を議会で議論し、執行機関に対して、住民の生命、健康、雇用等を守る対策を求めていくために一般質問は必要と考える。

## おかだ耕一後援会 第14回親睦マレットゴルフ大会 について

～新型コロナウイルス感染症の関係で現在検討中です～

開催可否、日時、会場等、あらためてご案内いたします

とよた市民の会

無料法律相談のご案内

～行政相談もどうぞ～

【開催日】7月11日(土)、9月12日(土)、10月10日(土)

※8月はお休みです

【時 間】いずれも午後1時30分～3時

【場 所】予約時にご連絡いたします

お問合せ 小林おさむ 80-5323

弁護士に無料で相談できます。  
完全予約制といたしますのでご了承ください。  
ご希望の方は2日前までにご連絡ください。

## おかだ耕一市議が行った本会議や委員会での質疑をご報告いたします

豊田市議会6月定例会では、新型コロナウイルス感染症の関係で一般質問が取りやめとなりましたので、本会議での議案質疑や委員会における質疑と答弁をご紹介します。

### 1) 豊田市のコロナ関連対策費

**Q: コロナ禍の現状において、財政調整基金から多額の繰り入れを行い、残高が激減している自治体もある。本市は、他自治体と比較し、コロナ関係対策費が少ないのではないか**

A: 新型コロナウイルス感染症対策が多く含まれると思われる今年度6月までの補正予算について、基金繰入金と前年度繰越金の合計額を見ると、岡崎市が約30.5億円、豊橋市が約23.8億円。豊田市の新型コロナウイルス感染症対策の合計額は約49.7億円となる。

人口一人あたりでは、岡崎市約7,900円、豊橋市約6,400円、豊田市が約11,700円(おかだ市議計算)となり、他市に比べて多額の予算を計上していることになる。

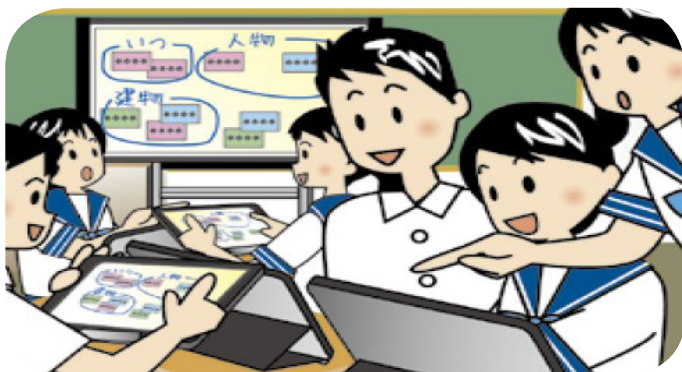
### 2) 全小中学生分の学習用タブレット端末の購入

**Q: 学校への配置を早めるためタブレット端末の分割納入の考えと早期納入される端末がある場合の早期活用の考えは**

A: 年度末に4万台を一括納入するのではなく、端末が入荷次第、順次学校へ納入し、端末の整備と設定が終わった学校から順次活用できるよう調整する。

**Q: 電磁波過敏症に対する見解、その可能性のある児童生徒のための対応は**

A: 電磁波過敏症について、WHOの研究報告において医学的診断基準はない。機器の使用後、体調の変化があった場合は、医療機関に相談するなど、個別の対応を考えていく。



### 3) WE LOVE とよた応援商品券

**Q: 購入できる対象者、発行、購入手続きは**

A: 対象者は豊田市在住の全市民で20億円(額面24億円分)販売する。商品券は往復はがきでの抽選販売を予定。できるだけ多くの皆さんが購入できるように、一人当たりの購入の上限額は5万円。応募多数の場合の抽選方法など、詳細は今後検討する。

**Q: プレミアム商品券の原資とするため市職員等への寄付要請の考えがあるのか。それは強制にならないか。市民からの寄付金をどう見込むか**

A: 市職員には協力を呼びかける。寄付をするかは、あくまで職員の自主的な判断によるものと考え。3億円の寄付を達成できるよう周知に努め、多くの市民の皆さまの協力を得ながら取り組む。



2015年7月13日: 早朝より高橋コミュニティセンターでプレミアム商品券購入を待つ皆さん

## おかだ耕一市議の今回の 補正予算に対する考え

本市における今年度の財政調整基金繰入金の当初予算額は77億円で、年度末残高見込みは295億円。4月には予定外の約16億円が計上された。

第2波、第3波の備えも問われる新型コロナウイルス感染症。これに関連した廃業、倒産、自己破産、さらには家賃支払いや住宅ローン返済等に苦む状況が広がり、まだまだ続くことが懸念される。

私は財政均衡を重視する立場だが、いたずらに財政均衡に縛られることなく、今年度さらに100億円程度の基金繰入を予算化するぐらいの覚悟がなければ、世界的に長期化するこの非常事態を乗り越えられないと思っている。

#### 4) 地域医療センターの医療機器取得

**Q: 豊田地域医療センターの放射線機器、手術室機器、スマートベッドシステムの購入に関して、結果は、入札参加者が3件ともに1社だった。想定される理由は**

A: 入札参加者がそれぞれ1社だった理由は明確ではないが、構成が複雑な医療機器のため、取扱い可能な業者が、ある程度限定されたことが考えられる。

#### **Q: 入札参加者を多くする方策の検討は**

A: 今回の入札は、一定の条件下で、広く入札参加者を募る「一般競争入札」を採用した。入札参加資格は、発注規模に応じた標準的な要件とし、特殊な要件は設定していない。入札参加資格として求める契約実績は、幅広い業者が参加できるように、官公庁発注の案件だけでなく、民間との契約実績も認めた。

**Q: 3件いずれも落札率が99%以上だったが、予定価格の設定は妥当か**

A: 発注案件の担当課が、メーカー等から徴収した見積りを参考に積算書を作成し、それに基づいて設定したので妥当と考える。



地域医療センターへ導入されるスマートベッドシステム

#### 5) 消防団積載車の購入

**Q: 更新される積載車に積載されている小型動力ポンプ等の資機材を、必要とする自治区、自主防災会等へ譲渡する考えは**

A: 積載車の更新に伴い不用となった小型動力ポンプ等の資機材は、売り払いが原則だが、自治区等から譲渡の要望があった場合には、公益上の必要性を確認し、個別に可否を判断する。



消防団積載車とポンプ点検する消防団員

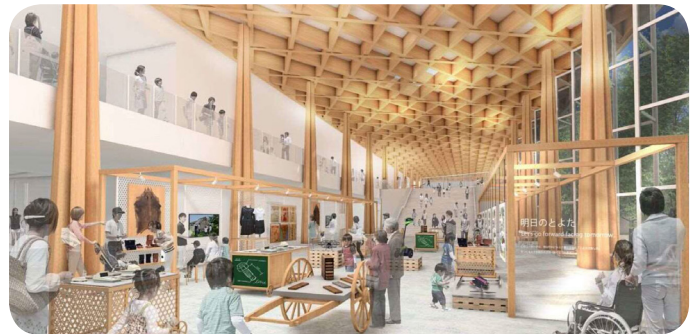
#### 6) 令和5年度開館を目指す新博物館の建設

**Q: コロナ禍における税収の不透明感により、着工時期を延期する考え。総事業費88億円の本計画を一時凍結、白紙撤回する考えはなかったか**

A: (仮称) 豊田市博物館は、豊かな自然や、その中で育まれた歴史や文化、ものづくりなど、本市の持つ様々な魅力を、守り、育て、次世代に引き継いでいくための「WE LOVE とよたの拠点」になるものと考えている。そのため、本議案の準備工事をはじめ、順次進める考え。しかし、「新型コロナウイルス感染拡大」に起因する、市民生活、社会経済情勢への影響が懸念されているので、スケジュール等については、第8次総合計画の「後期実践計画 策定過程」などにおいて、適切に判断する。



旧豊田東高等学校跡地に郷土資料館の新築移転が計画、進行する



館内イメージ図

### おかだ耕一市議の 新博物館の建設に関する立場

私は、新博物館の必要性は認めるが、現状では本体工事着工は当分延期し、当初計画どおりに進めるべきではないとの考えである。

(仮称) 豊田市博物館は、狭く古くなった郷土資料館を旧豊田東高校跡地へ新築移転するものである。旧校舎の長期放置は、防災上、防犯上、不適切であり、議案である解体工事等に異論はない。

また、コロナ禍とは言え、すべての公共事業を止めてしまうことは、地元企業の存続、地域経済循環等のためには、妥当な判断とは言えない。

しかし、長期的に見れば、恵まれた本市財政も、リーマンショックやコロナ禍のように、いつまた税収激減に見舞われるかはわからない。

新博物館については適正規模で無駄のない効率的な整備、施設運営を求めてゆく。

